

# ジェンダー・イノベーションの潮流—性差の気付きでお宝を手に入れよう—

佐々木 弥生

研究開発や製品化の際に性差を考慮しイノベーションに結びつける動きが注目されている。昨年4月には日本の拠点となるジェンダー・イノベーション研究所がお茶の水女子大学に開設された。同研究所の佐々木成江特任教授に経緯や課題を聞いた。

## ポジティブで革新的な考え方

ジェンダー・イノベーションとは、生物学的、社会的な「性差」の視点を研究開発に組み入れて新たな価値を創造しようという考え方。見過ごされていた様々な問題、例えば睡眠導入剤などの薬の用量が男性のデータのみで定められ女性では効き過ぎていたことや、シートベルトが妊婦の流産率を上げてしまっていたことなどに光が当てられた。



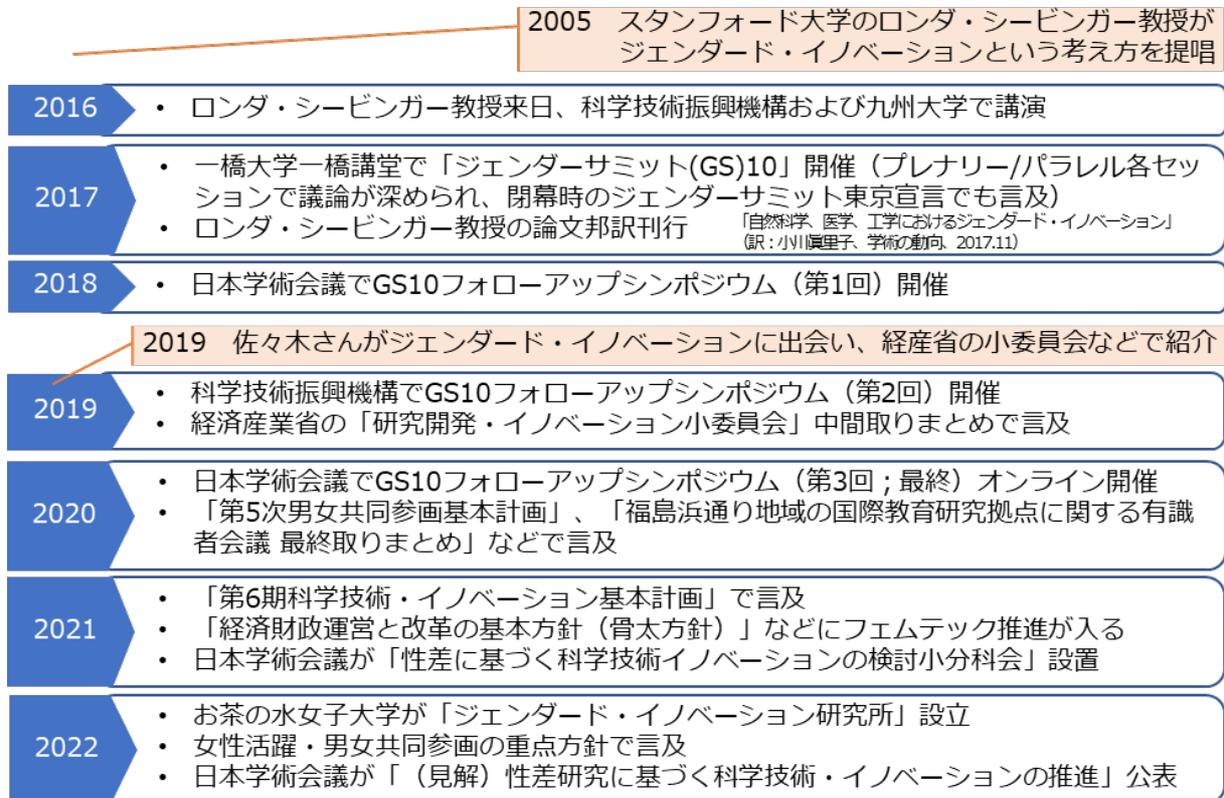
ジェンダー・イノベーションの意義やフェムテックとの関わり、今後の方向性について説明する佐々木さん

提唱は2005年、スタンフォード大学のロンダ・シービンガー教授による。佐々木さんは「(ジェンダー) バイアス」ではなくポジティブな「イノベーション」を用いたことが文字通り

革新的だと言う。日本に導入されたのは2016年。マスコミでも取り上げられてきた。

## ジェンダー・イノベーションに関する日本国内の主な動き

二



### 反省を基に理念を持つ大学に拠点を作る

佐々木さんは2019年にある記事でこの考え方を知り、その日に政府の小委員会で紹介、普及に邁進する。根底には、真理に近づくための研究に携わりながら隠れたジェンダーバイアスに全く気付かなかった自分への反省があると打ち明ける。「（自分と同じように）ほとんどの人も気付いていないはず。そこにはお宝が沢山残っており、学問が豊かになるはず」

日本に根付かせるには政策に加え拠点が必要と佐々木さんは考えた。最適なのは女子教育を牽引する理念と女性教員の層の厚さ、複数の関連研究所を持つお茶の水女子大学。早速、古巣でもある同大学の学長や教員に話した。「すーっと受け入れられる感じ」「この環境だったらいろんなことができるという希望を感じた」

### フェムテックから社会の意識を熟成する力を学ぶ

片や産業界では2016年頃にフェムテックが登場した。女性を表す英単語フィメールと技術を示すテクノロジーからなる造語で、女性特有の健康課題を解決する新製品やサービスを生み出す

成長市場。現在ではジェンダード・イノベーションの一分野とされている。

フェムテックが広まり、これまでタブー視されていた生理を正面から取り上げるなど、社会が変わる様を佐々木さんは学んだ。「『ここに差があった』『ここは差を補わなくてはいけない』という公正（エクイティ）\*の意識を熟成する力がある」そして「産学連携をかなり強く意識していることは日本の特徴」とも。

## 研究力とネットワーク作りで豊かな社会を

海外の助成金プログラムでは 2010 年頃から性差分析を求めるよう対応、Nature（ネイチャー）など大手ジャーナルも投稿規定を整備してきた。出遅れている日本の一番の課題はどこか。佐々木さんは「研究力」と言い、研究費の付け方も海外のように改善すべきと指摘する「今まで雄だけで研究していたのを、雌も入れるにはお金もかかる。研究者にとっては（雄の実験動物で結果が出ていても）雌で有意なデータが取れるか分からないというのはハードルになる」

ジェンダード・イノベーション研究所は他大学や学会とのネットワーク作りにも力を入れる。自由な発想でテクノロジーを活用する術というお宝を手に入れ、豊かな社会を築くために。

---

\*公正（エクイティ）とは、国籍や性別、生まれ育った環境などのバックグラウンドは人それぞれ異なるという前提にたち、全ての人と同じ機会を得られるように配慮・必要に応じてサポートするという考え方。「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）」として多様性推進の文脈で広まり、全ての人に同じサポートをする／もしくはしないことを示す「平等（エクオリティ）」との対比で説明される。

---

## 関連リンク

- ・お茶の水女子大学 ジェンダード・イノベーション研究所  
<https://www.cf.ocha.ac.jp/igi/>
- ・「自然科学、医学、工学におけるジェンダード・イノベーション」Londa Schiebinger（訳：小川眞里子）  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/22/11/22\\_11\\_12/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/22/11/22_11_12/_pdf/-char/ja)
- ・ジェンダーサミット 10 報告書  
[https://www.jst.go.jp/diversity/pdf/seminar\\_reports\\_ja.pdf](https://www.jst.go.jp/diversity/pdf/seminar_reports_ja.pdf)

- ・女性版骨太の方針（女性活躍・男女共同参画の重点方針）

<https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/sokushin.html>

- ・日本学術会議「（見解）性差研究に基づく科学技術・イノベーションの推進」

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-k221110.pdf>